

2026年10月期 中間期 決算説明会

2026/6/26

2026年10月期 中間期 サマリー

中間期 実績

(単位：億円)

	2025 /2Q 実績	2026 /2Q 実績	前年 同期比	増減率
売上高	962	1,029	+67	+7%
農薬及び農業関連	784	836	+52	+7%
化成品	125	145	+20	+16%
その他	52	47	▲5	▲9%
営業利益	94	105	+10	+11%
経常利益	83	138	+55	+66%
親会社株主に帰属する 中間純利益	63	87	+25	+39%

参考：平均レート ¥/ドル=151 ¥/ドル=157

通期 業績予想

(単位：億円)

	2025 実績	2026 予想	前期比	増減率
売上高	1,705	1,620	▲85	▲5%
農薬及び農業関連	1,357	1,270	▲87	▲6%
化成品	251	261	+10	+4%
その他	97	90	▲7	▲7%
営業利益	106	72	▲34	▲32%
経常利益	134	109	▲25	▲18%
親会社株主に帰属する 当期純利益	44	64	+20	+46%

参考：平均レート ¥/ドル=149 ¥/ドル=150

■ 農薬及び農業関連事業、化成品事業で増収・増益

- ✓ 国内向け農薬が前年同期比 2億円の増収
- ✓ 海外向けは除草剤「アクシーブ」オーストラリア向け出荷減も、米国向けがジェネリック参入を見据えた販促支援による前倒しにより増収
- ✓ 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷大幅増

■ 連結子会社イハラニッケイ化学工業(株)において固定資産の減損損失および構造改革費用を含め特別損失を計上したものの、中間純利益は経常利益の大幅増益により、前年同期比25億円の増益

■ 通期業績予想は据え置き

- ✓ 中東での紛争沈静化により、当社事業への影響が小さくなることが想定されるものの、その影響の程度については精査中
- ✓ 当中間期は米国向けアクシーブがジェネリック参入を見据えた販促支援による前倒し出荷により増収、下期はジェネリック品との競合により、値下げ圧力が強まる想定
- ✓ ビスマレイミド類の出荷増による上振れの可能性

本日のアジェンダ

I. 事業環境	3
II. 2026年10月期 中間期実績	6
III. アクシープ概況	16
IV. 2026年10月期 業績予想	20
V. 新剤・新技術の開発状況	22
VI. 当社の成長ドライバー	24
VII. 質疑応答		

事業環境

原油・ナフサ価格

中東情勢の緊迫化に伴い、原油・ナフサ価格は2022年ロシアによるウクライナ侵攻時と同程度に上昇

対ドル為替動向

期中平均レート 157円（前年同期151円）

期末日レート 160円（前年同期143円）

穀物市況

主要穀物(コメ、ダイズ、コムギ、トウモロコシ)の価格は上昇傾向

- 異常気象による単収低下への懸念とバイオ燃料需要の拡大
- 国内におけるコメの価格は民間在庫の急増に伴い下落基調であるものの世界的には上昇傾向

米国関税政策の影響

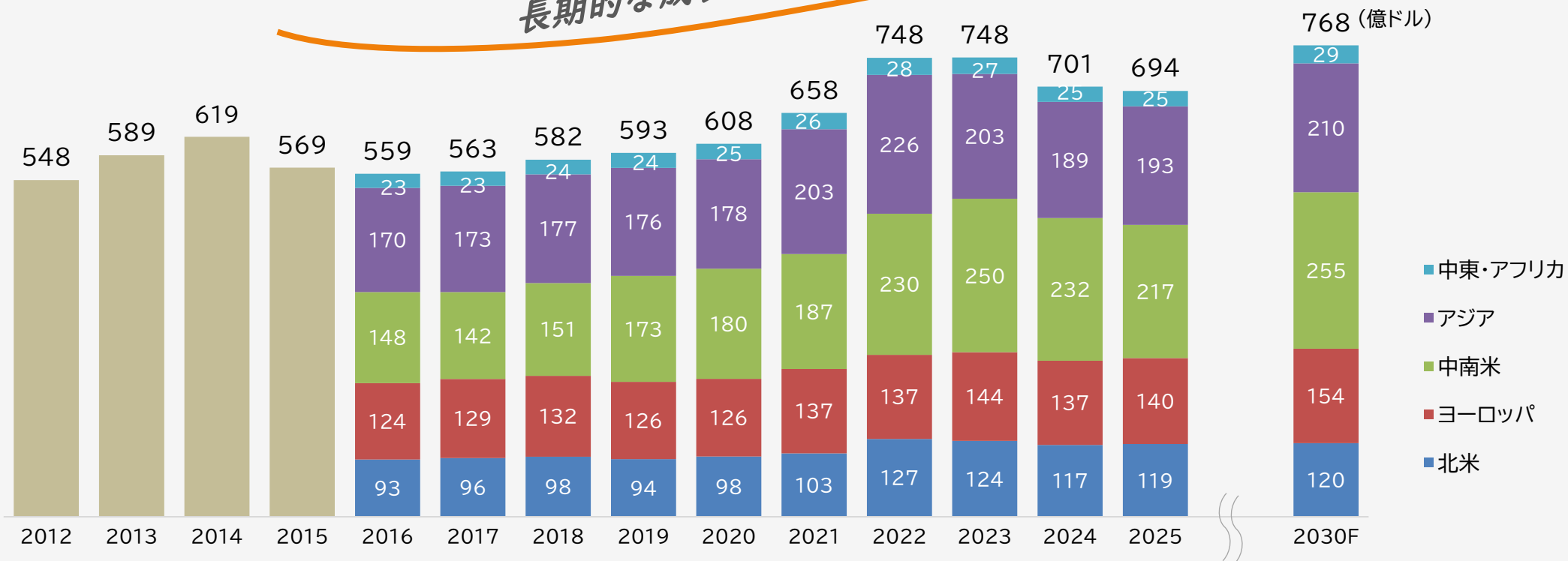
米国関税政策が当社製品に与える直接的影響は現時点においても軽微であるとの認識は変わらず

事業環境

農薬市場の動向

流通在庫水準が適正化し、再び成長基調に転じると予想
日本国内においては緩やかな拡大傾向

長期的な成長トレンド



出典：Agbioinvestor（世界市場）、クロップライフジャパン（国内市場）

本日のアジェンダ

I. 事業環境	3
II. 2026年10月期 中間期実績	6
III. アクシープ概況	16
IV. 2026年10月期 業績予想	20
V. 新剤・新技術の開発状況	22
VI. 当社の成長ドライバー	24
VII. 質疑応答		

2026年10月期 中間期実績

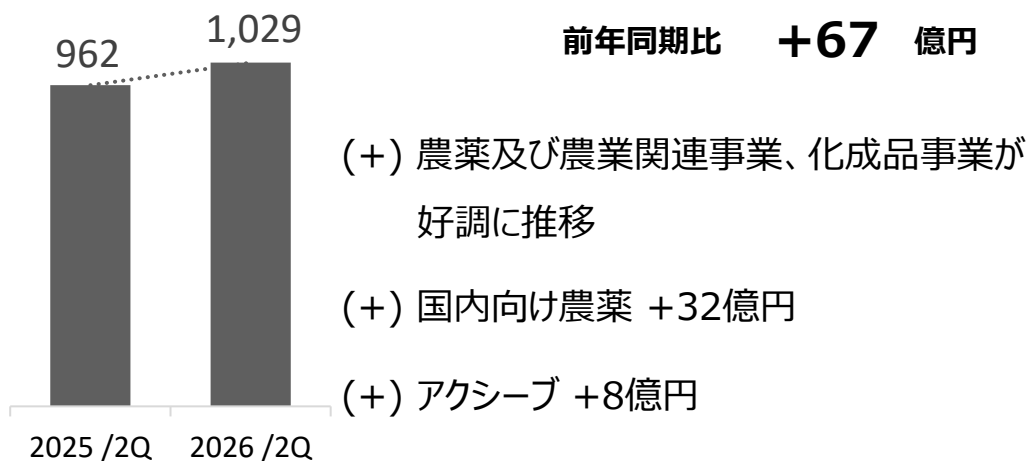
(単位：億円)

	2025 /2Q 実績	2026 /2Q 実績	前年同期比	増減率	2026 /2Q 業績予想	予想比	増減率
売上高	962	1,029	+67	+7%	928	+101	+11%
売上総利益	208	223	+15	+7%	-	-	-
営業利益	94	105	+10	+11%	61	+44	+72%
経常利益	83	138	+55	+66%	82	+56	+68%
親会社株主に帰属する中間純利益	63	87	+25	+39%	44	+43	+99%

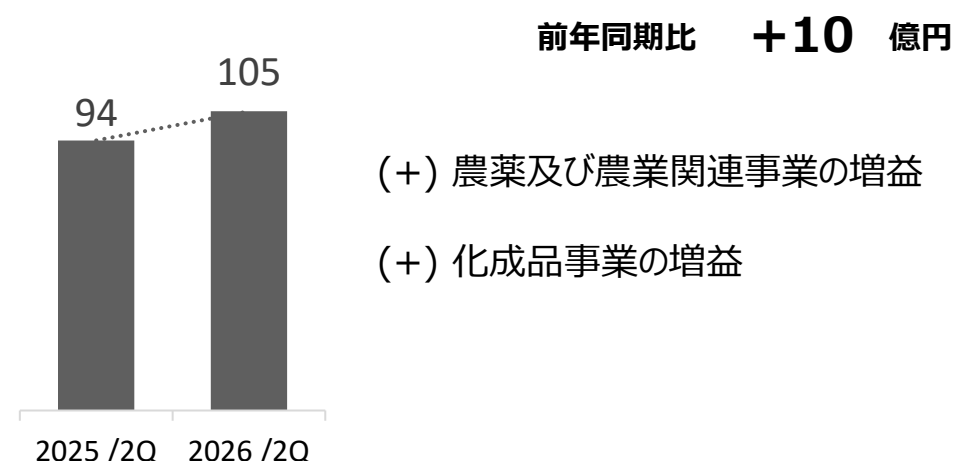
参考：平均レート ¥/ドル=151 ¥/ドル=157

¥/ドル=150

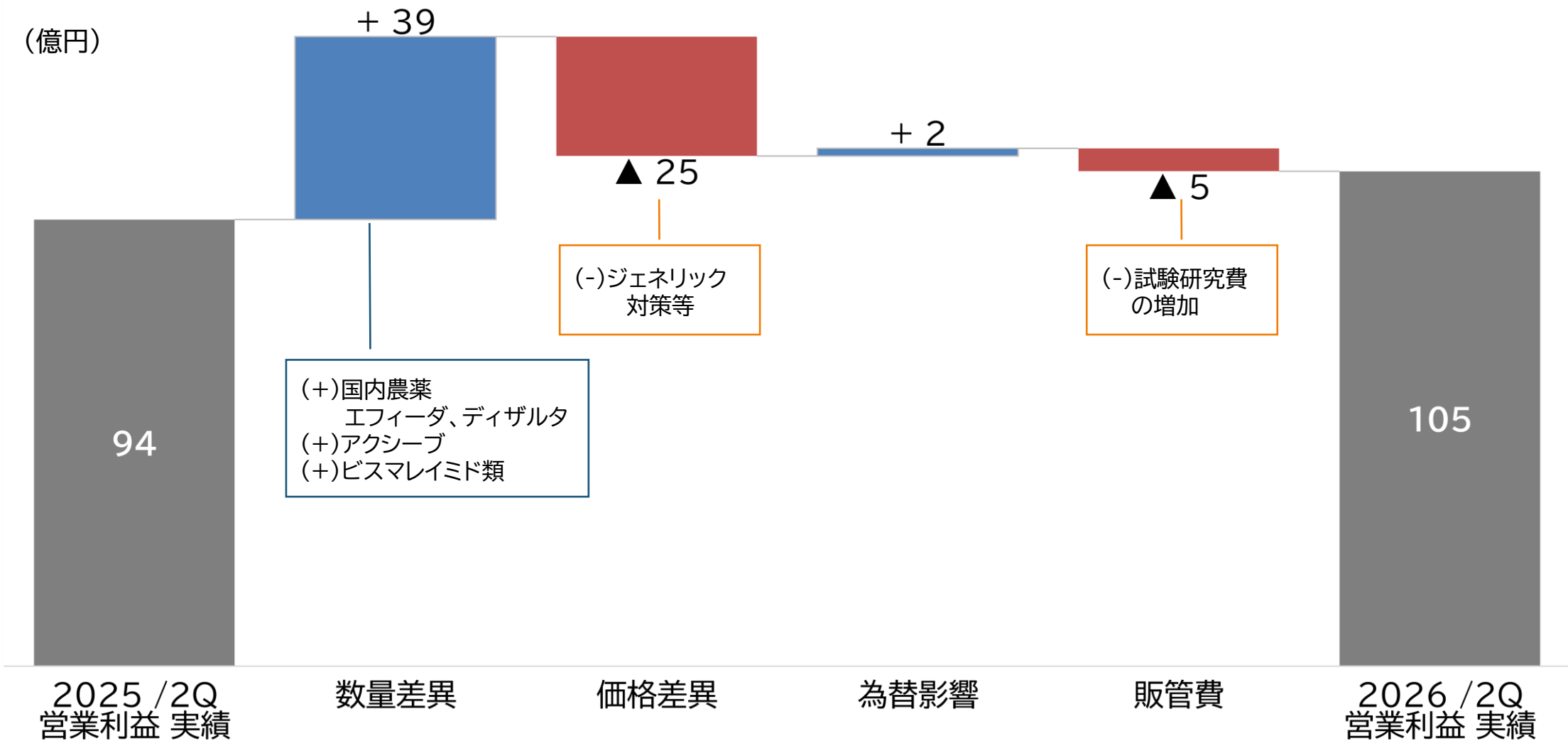
売上高



営業利益



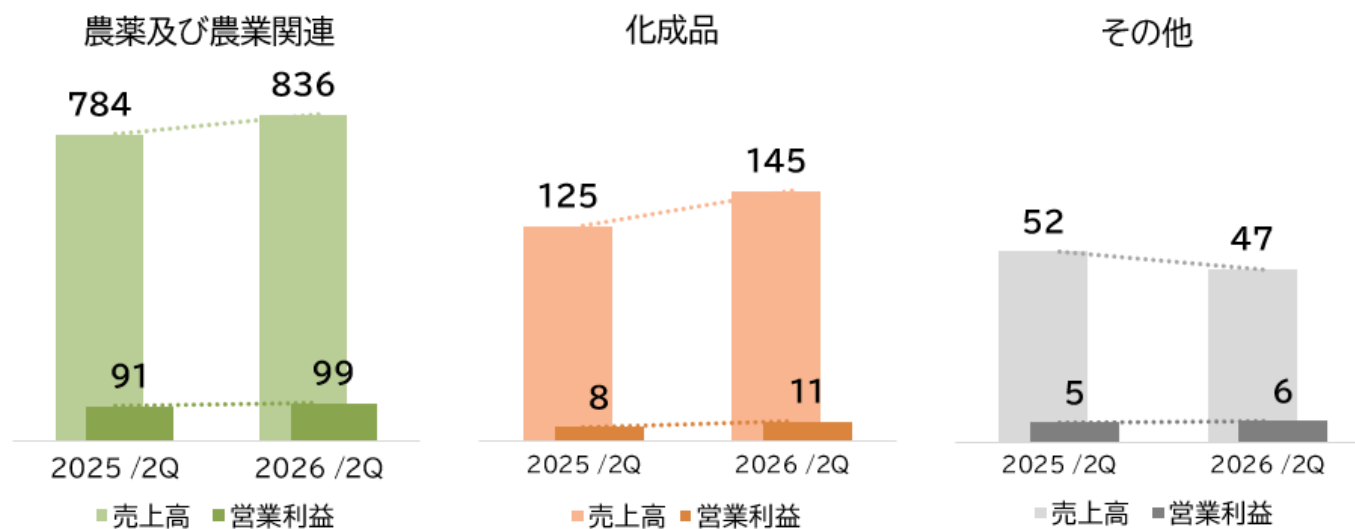
営業増益の要因



2026年10月期 中間期実績 (セグメント別)

(単位：億円)

	2025 /2Q 実績	2026 /2Q 実績	前年同期比	増減率
売上高	962	1,029	+67	+7%
農薬及び農業関連	784	836	+52	+7%
化成品	125	145	+20	+16%
その他	52	47	▲5	▲9%
営業利益	94	105	+10	+11%
農薬及び農業関連	91	99	+8	+9%
化成品	8	11	+3	+38%
その他	5	6	+0	+9%
(調整額)	▲10	▲11	▲1	-



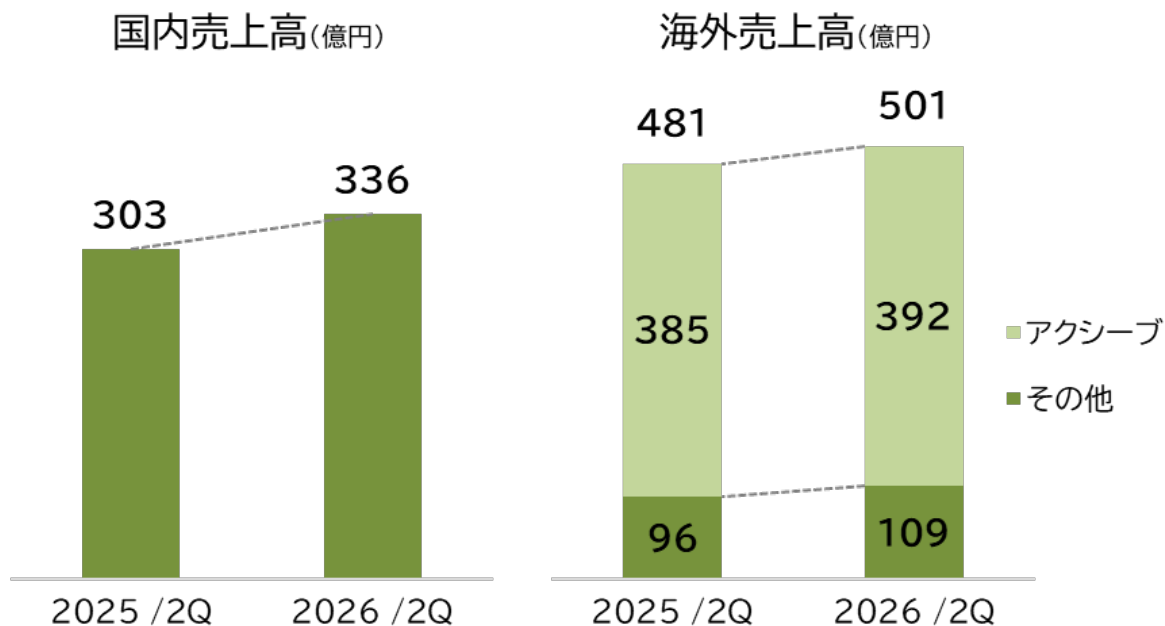
2026年10月期 中間期実績 - 農薬及び農業関連事業

国内

- 除草剤「エフィーダ」を含む水稲用除草剤、「ディザルタ」を含む水稲用箱処理剤が好調
- 近年のカメムシ類の発生増加による殺虫剤の需要増

海外

- 除草剤「アクシーブ」オーストラリア向け出荷減も、米国向けはジェネリック品参入を見据えた販促支援強化により出荷増



2026年10月期 中間期実績 -化成品事業

塩素化

- クロロキシレン系製品の前倒し出荷により前年対比増収で推移するも、事業環境は依然として厳しい

精密化学品

- 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要好調によるビスマレイミド類の出荷増

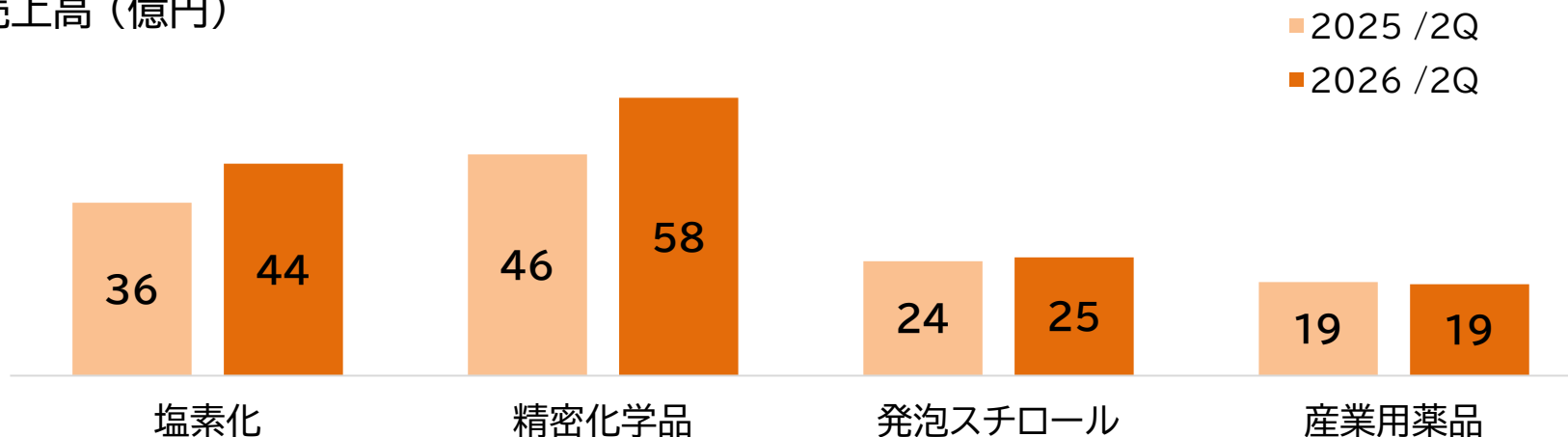
発泡スチロール

- 微増収

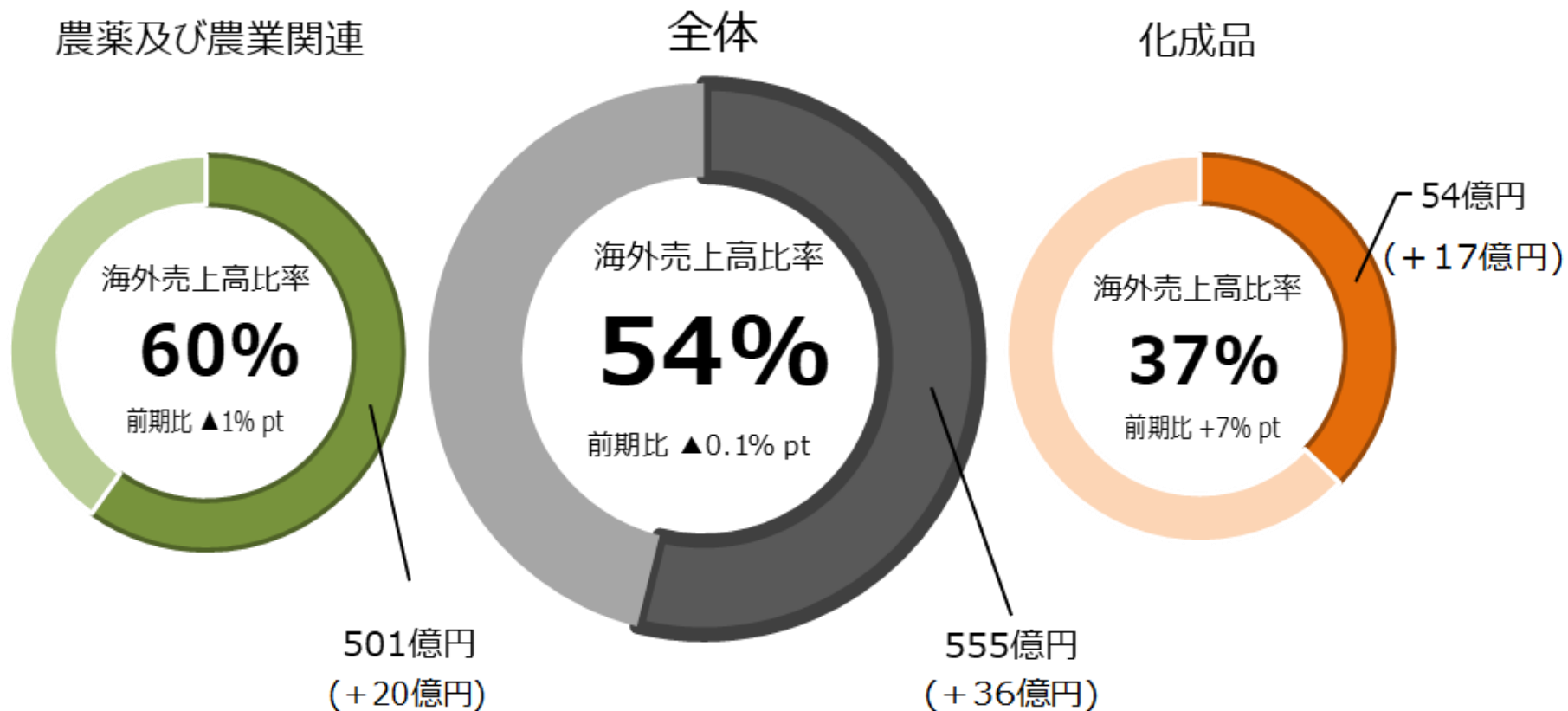
産業用薬品

- 前年並み

売上高 (億円)

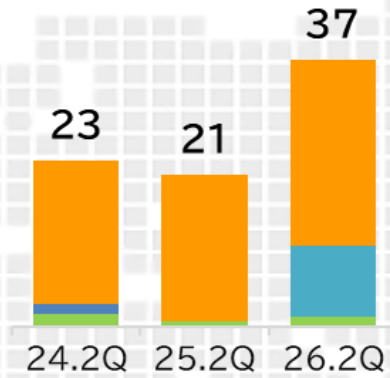


2026年10月期 中間期実績 (海外売上高比率)

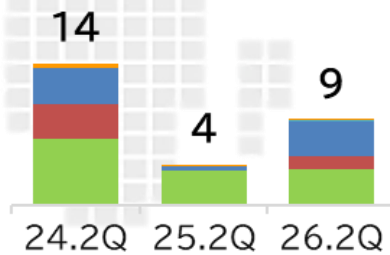


2026年10月期 中間期実績 - 農薬及び農業関連事業地域別・用途別 売上高

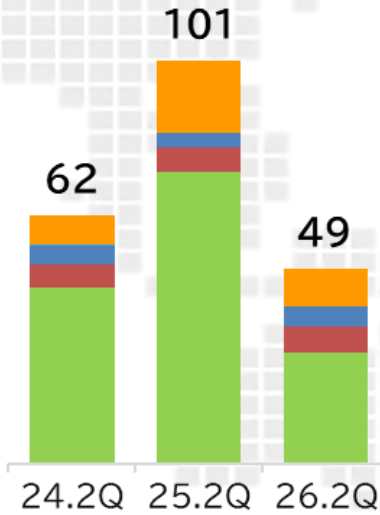
(単位：億円)



欧州

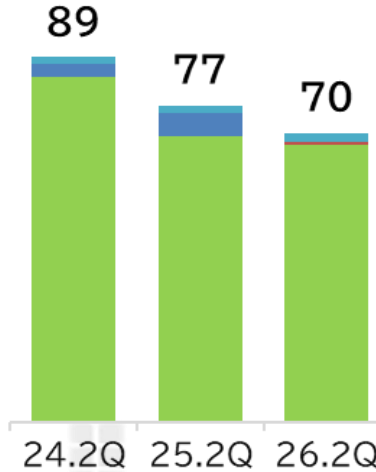


中近東・アフリカ

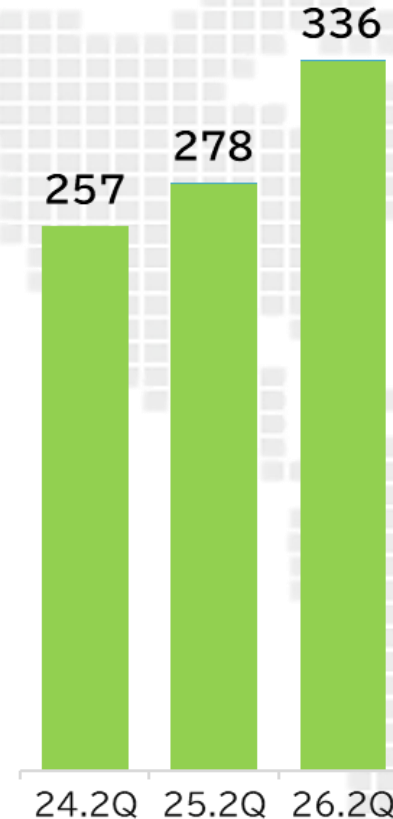


アジア・オセアニア

※国内を除く



中南米



北米

■ 除草剤 ■ 殺虫剤 ■ 殺菌剤 ■ 植物成長調整剤 ■ その他

2026年10月期 中間期実績 -化成品事業 減損損失

塩素化事業の状況

中国・インドなどの化学メーカーの市場参入により競争激化、事業環境が悪化

イハラニッケイ化学工業(株)

- ✓ 現在の事業環境及び将来の収益見込み等を勘案した結果、固定資産について5億円の減損損失を計上
- ✓ 厳しい事業環境のもと、一連の構造改革を進めており、固定資産の減損損失9億円を構造改革費用として計上

特別損失として14億円を計上

Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd.

- ✓ 設立当時の事業計画との大きな乖離が生じたため2025年度10月期に固定資産の減損損失を計上

塩素化事業の再成長に向けた経営改善を実施

- ✓ 本減損処理によって2026年度10月期の減価償却費は減少の見込みですが、詳細は精査中
- ✓ 今後発生する特別損失については、業績への影響がある場合には、確定次第お知らせいたします

2026年10月期 中間期実績 総括

事業全体

中間純利益※：親会社株主に帰属する中間純利益

売上高	1,029 億円	(前年同期比 +67 億円)
営業利益	105 億円	(前年同期比 +10 億円)
経常利益	138 億円	(前年同期比 +55 億円)
中間純利益※	87 億円	(前年同期比 +25 億円)

- 農薬及び農業関連事業、化成品事業で増収・増益
- 国内向け農薬が前年同期比32億円の増収
- 経常利益は為替差損益 前年同期比36億円、持分法による投資利益 前年同期比10億円の増益
- 中間純利益は連結子会社であるイハラニッケイ化学工業(株)において固定資産の減損損失および構造改革費用を含め特別損失を計上したものの、経常利益の大幅増益により、前年同期比25億円の増益

農薬及び農業関連事業

売上高	836 億円	(前年同期比 +52 億円)
営業利益	99 億円	(前年同期比 +8 億円)

- 国内向けは除草剤「エフィーダ」を含む水稲用除草剤、殺菌剤「ディザルタ」を含む水稲用箱処理剤が好調
- 海外向けは除草剤「アクシーブ」のオーストラリア向けが出荷減も、米国向けのジェネリック参入を見据えた販促支援による前倒しにより増収

化成品事業

売上高	145 億円	(前年同期比 +20 億円)
営業利益	11 億円	(前年同期比 +3 億円)

- 生成AIサーバー向け電子材料分野の需要が好調に推移し、ビスマレイミド類の出荷大幅増
- 一部のクロロキシレン系化学品の前倒し出荷により増収

その他事業

売上高	47 億円	(前年同期比 ▲5 億円)
営業利益	6 億円	(前年同期比 +0 億円)

- 建設業で前年同期に複数の大型工事が完成したことなどから減収

本日のアジェンダ

I. 事業環境	3
II. 2026年10月期 中間期実績	6
III. アクシブ概況	16
IV. 2026年10月期 業績予想	20
V. 新剤・新技術の開発状況	22
VI. 当社の成長ドライバー	24
VII. 質疑応答		

アクシーブ概況 ー地域別状況



米国

当中間期 売上高：325億円（前年同期比+56億円）

- 販促支援の強化による前倒し出荷により前年比出荷増
- ジェネリック品の流通を確認。下期にかけては値下げ圧力が強まると想定
- 参入状況を注視しつつ、適切な販促支援と新製品開発を実施しシェアの維持・拡大へ



オーストラリア・アルゼンチン



当中間期 売上高

オーストラリア：出荷なし（前年同期比▲49億円） アルゼンチン：35億円（前年同期比+19億円）

- ジェネリック品との競合が激化
- 第3四半期以降も出荷が見込まれるものの、価格対応により収益性が低下
- 特許侵害品に対する法対応は継続して実施



ブラジル

当中間期 売上高：27億円（前年同期比▲20億円）

- 出荷時期の後ろ倒しにより前年同期比で減収
- 供給過剰による競合剤の低価格化や金利高によるクレジットリスクを背景に、市場環境は依然として厳しいが、販促支援を強化することで出荷促進を図る

アクション概況 ー特許侵害品対策

13件（製造国：中国**8**件 / 販売国：オーストラリア**5**件）の提訴案件に対し**1**件の勝訴・**4**件について和解

中国におけるピロキサスルホン重要中間体物質特許侵害訴訟 勝訴について

クミアイ化学工業株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：横山優、以下、「当社」）は、当社が保有するピロキサスルホン重要中間体物質特許（特許番号：ZL 201210121587.2、以下「当該特許」）に基づき安徽省の中国企業（以下、「当該企業」）に対して特許権侵害訴訟を提起していました。今般、本訴訟において、安徽省合肥中級人民法院より当該企業に対して侵害行為の差止めを命じる差止命令及び関連損害賠償および訴訟費用の支払いを命じる勝訴の判決文を受領いたしましたので、お知らせいたします。

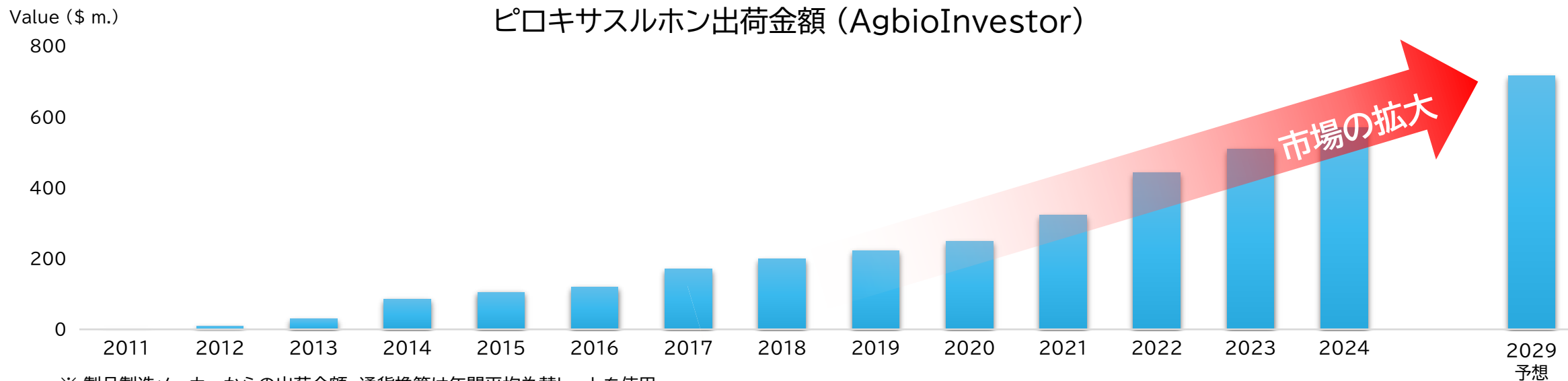
北米におけるピロキサスルホン関連特許について

クミアイ化学工業株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：横山優、以下「当社」）は、北米（米国およびカナダ）において、当社の主要製品であるピロキサスルホン（ブランドネーム：AXEEV®）に関連する、以下に記載する特許を含む有効な特許ポートフォリオを保有しております。当社は北米における公正な競争と技術革新の促進を目的に、これら知的財産を厳格かつ適切に保護・行使していきます。

米国： US7714142B2 及び US7812175B2（重要中間体とその製造方法に関する特許）、
US7833939B2、US8110530B2 及び US8283291B2（除草剤組成物に関する特許）
カナダ： CA2642308C（重要中間体とその製造方法に関する特許）、
CA3156419C（製造方法に関する特許）、
CA2671150C 及び CA2851098C（除草剤組成物に関する特許）

- 知的財産の戦略的な運用により、**持続的な収益の確保**につなげる
- ✓ 当社が保有する知財を有効に活用し、特許侵害品の市場参入を未然に防ぐ対応を実施
- ✓ 特許侵害が確認された場合には断固たる対応を継続する

アクシーブ概況 – ジェネリック品対策



▼ 2026年から米国でジェネリック品が参入、今後は値下げ圧力が強くなる見込み

▲ 2022年オーストラリアでジェネリック品の販売開始以降、ピロキサスルホンの流通量は増加。拡大傾向は継続する見込み

シェアの獲得



収益性の改善

生産 | 原体製造法のさらなる効率化による**コスト低減**

販売 | **販売支援の強化、販路の拡大**

開発 | **新規混合剤開発**による製品ポートフォリオの充実と**高付加価値化**の推進

本日のアジェンダ

I. 事業環境	3
II. 2026年10月期 中間期実績	6
III. アクシープ概況	16
IV. 2026年10月期 業績予想	20
V. 新剤・新技術の開発状況	22
VI. 当社の成長ドライバー	24
VII. 質疑応答		

2026年10月期 業績予想（前期比）

（単位：億円）

	2025 実績	2026 予想	前期比	増減率
売上高	1,705	1,620	▲85	▲5%
農薬及び農業関連	1,357	1,270	▲87	▲6%
化成品	251	261	+10	+4%
その他	97	90	▲7	▲7%
営業利益	106	72	▲34	▲32%
経常利益	134	109	▲25	▲18%
親会社株主に帰属する当期純利益	44	64	+20	+46%

参考：平均レート ¥/ドル=149 ¥/ドル=150

■ 通期業績予想は据え置き

□ 事業環境

- ▶ 中東での紛争沈静化により、当社事業への影響が小さくなるのが想定されるものの、その影響の程度については精査中
- ▲ 為替は円安で推移

◆ 株主還元施策

- ▶ 通期の業績は2025年12月12日公表の業績予想を据え置いたため、年間配当予想は維持

□ 農薬及び農業関連

- ▲ 国内向け農薬が好調に推移
- ▲ 当中間期は米国向けアクシーブがジェネリック参入を見据えた販促支援による前倒し出荷により増収
- ▼ 下期はジェネリック品との競合により、値下げ圧力が強まる想定

□ 化成品

- ▲ ビスマレイミド類の出荷増による上振れの可能性
- ▼ 塩素化事業で減損損失

本日のアジェンダ

I. 事業環境	3
II. 2026年10月期 中間期実績	6
III. アクシープ概況	16
IV. 2026年10月期 業績予想	20
V. 新剤・新技術の開発状況	22
VI. 当社の成長ドライバー	24
VII. 質疑応答		

研究開発戦略 一新剤・新技術の開発状況

	分野	実用性評価段階	開発段階	上市 地域・作物拡大
殺虫剤				
フルペンチオフェノックス(バネンタ [®])	殺ダニ剤		●	
殺虫剤A	水稲用殺虫剤		●	
殺虫剤B	水稲・園芸用殺虫剤	●		
殺菌剤				
ディザルタ [®]	水稲用殺菌剤			●
殺菌剤A	果樹・野菜用殺菌剤	●		
殺菌剤B	畑作用殺菌剤	●		
除草剤				
エフィーダ [®]	ムギ・水稲用除草剤			●
除草剤A	畑作用除草剤	●		
除草剤B	除草剤	●		
微生物農薬・バイオスティミュラント				
エコアーク [®]	根頭がんしゅ病防除剤			●
微生物農薬A	果樹・野菜用防除剤	●		
なつつよし [®]	バイオスティミュラント			●
微生物A	バイオスティミュラント	●		

■ 実用性評価段階にある候補化合物の**早期開発**、**継続的な新規剤の創出**を目指す

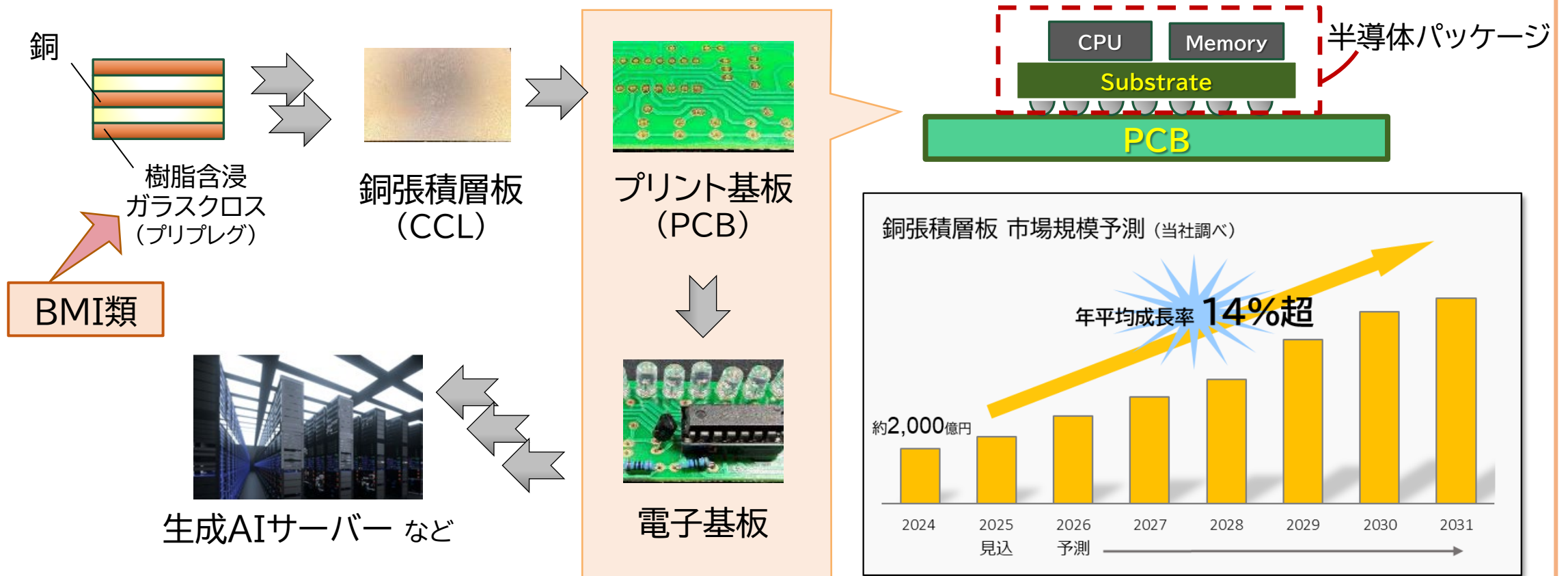
本日のアジェンダ

I. 事業環境	3
II. 2026年10月期 中間期実績	6
III. アクシープ概況	16
IV. 2026年10月期 業績予想	20
V. 新剤・新技術の開発状況	22
VI. 当社の成長ドライバー	24
VII. 質疑応答		

当社の成長ドライバー | ビスマレイミド (BMI) 類 – 半導体関連電子材料

ビスマレイミド類 (BMI) 類 : 高機能性樹脂の原料

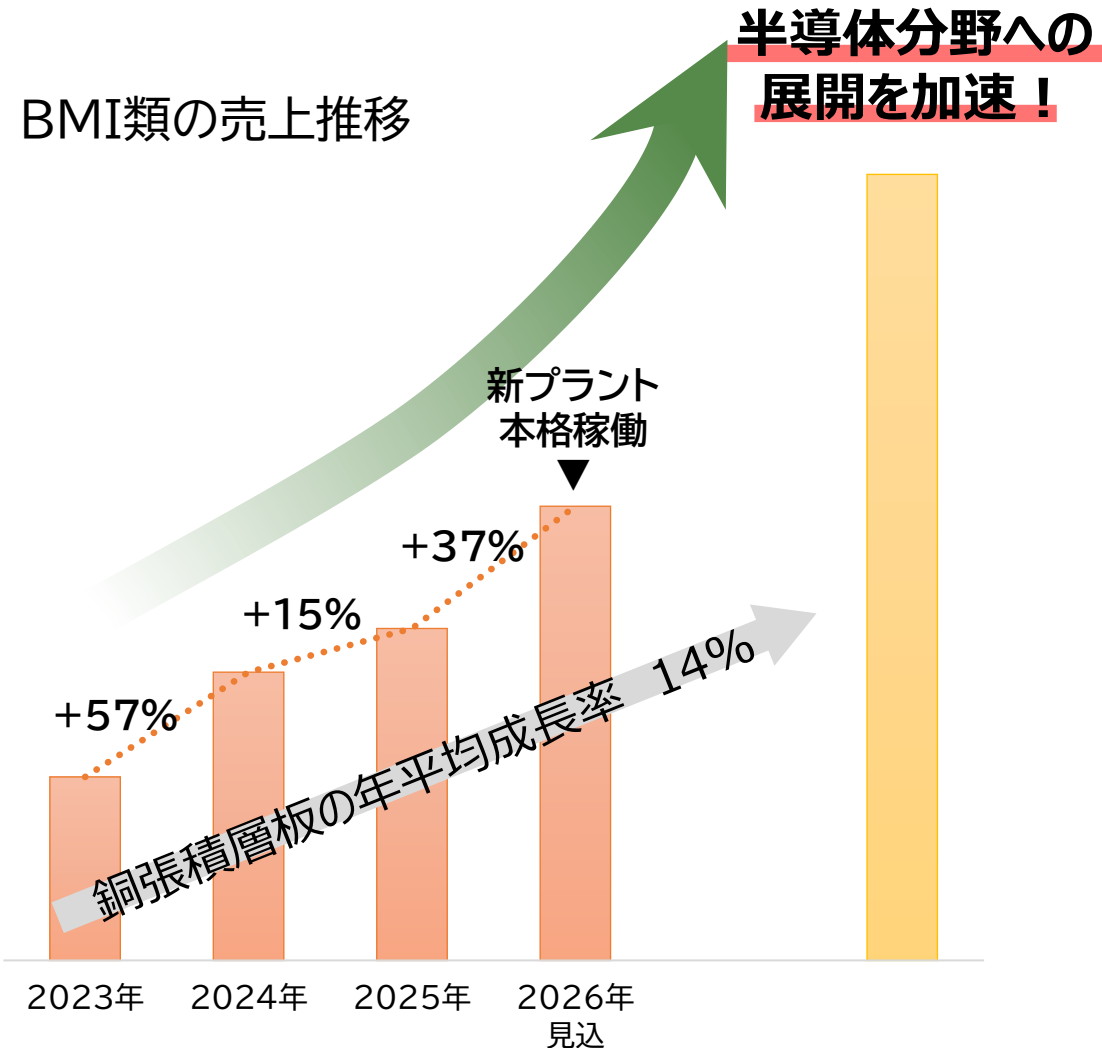
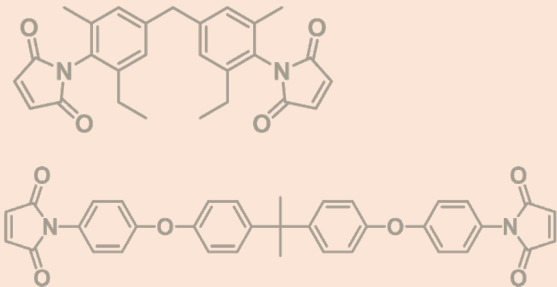
耐熱性と強靱性、誘電特性に優れる ▶ 電子部品に最適
 ▶ 生成AIサーバー向け電子材料(CCL)向け需要が増加



当社の成長ドライバー | ビスマレイミド (BMI) 類 - 半導体関連電子材料

半導体分野での事業展開 / 供給の最大化

- 新プラント本格稼働による生産体制の**強化**
 - ▶ さりなる生産能力の**増強**を検討
 - ▶ 需要をとりこぼさない**強固な生産基盤**
- 国内におけるBMIモノマーの**供給最大手**
- 新規顧客、用途の拡大
航空宇宙用途、生成AI、...
- 次世代の**新素材**の開発



当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ

エフィーダ (成分名：フェンキトリオン)

- 除草剤成分
 - ✓ 水稲用 (初期 / 初・中期一発 / 中・後期)
 - ✓ 非農耕地用 (主に、ゴルフ場)
- 幅広い種類の雑草に効果があり、極めて高い作物安全性を有する、**優れた混合母剤**

■ 水稲用除草剤とは

- ✓ 水稲の生育期間に、水田に施用し除草効果を発揮する薬剤

水稲用除草剤の使用時期

(※薬剤によって使用時期が異なりますので、ご使用の際は農薬登録をご確認下さい)

移植水稲の田植え～収穫まで

田植え：育てた苗を水田に植える → 生育期間：防除・施肥・水管理 → 収穫



■ 水稲用除草剤の様々な散布方法



水口散布



ドローン散布



手まき散布



田植同時散布

当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ

ディザルタ (成分名: ジクロベンチアゾクス)

- 殺菌剤成分
 - ✓ 水稲用箱処理剤
 - ✓ 水稲用殺菌剤
- 水稲主要病害である「いもち病」に高い効果、長い残効性
- 高い水稲安全性、耐性菌発達リスクが低い
- 箱処理剤とは
 - ✓ 水稲の育苗箱に施用し、苗に薬剤を吸収させることで効果を発揮する薬剤

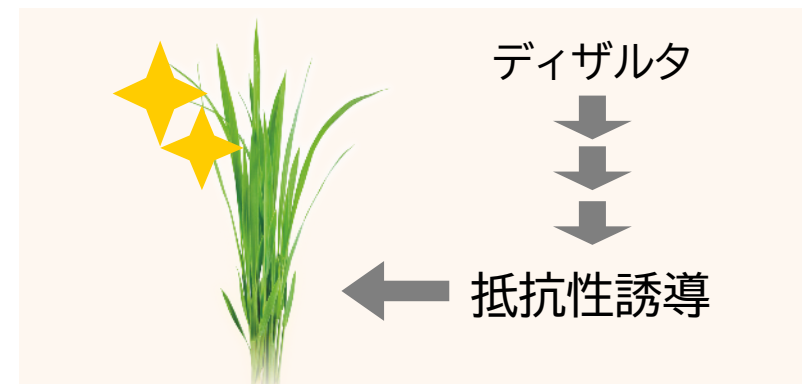
箱処理剤の使用時期 (※薬剤によって使用時期が異なりますので、ご使用の際は農薬登録をご確認下さい)

移植水稲の播種～生育期間まで

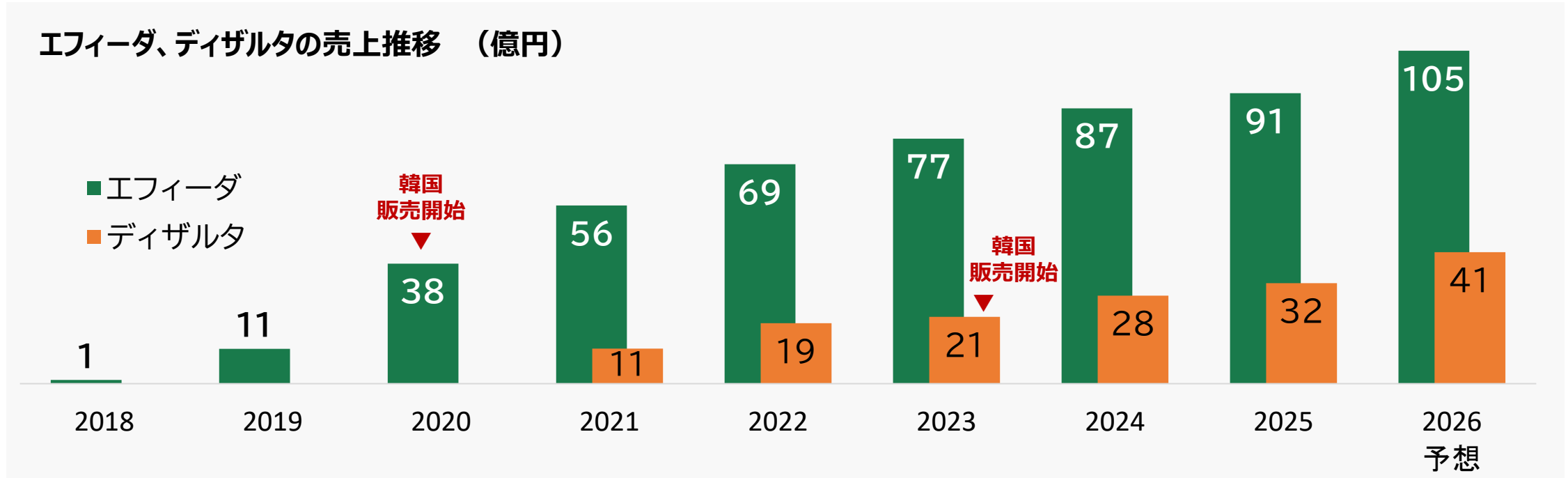
播種: 育苗箱に種をまく → 育苗: 苗を育てる → 田植え: 苗を水田に植える → 生育期間



- ディザルタは水稲の**抵抗性を誘導**し、重要病害**いもち病の発生を防ぐ**



当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ



- 日本国内を中心に需要を拡大

▶ エフィーダの成長により当社の水稲用初・中期一発処理除草剤は

2021年から5年連続シェアNo.1

- エフィーダは2020年から、ディザルタは2023年から韓国で販売を開始

当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ

エフィーダ **13** 剤 (39 剤型)

ディザルタ **11** 剤

2026年度

1 剤 販売開始



(ハヤドリ / 北海道限定)

2026年度

3 剤 販売開始 (エクスロトル・ブーンリガードパディート
・ブーンクロノス)



■ 現場ニーズに適した豊富な製品ポートフォリオ

- ▶ 生産者が抱える水稻栽培における課題を解決
- ▶ 製品ポートフォリオの拡充による既存市場でのさらなる**拡大**

当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ

農薬は多種多様な雑草・病害虫を防除するため原体（有効成分）を混合し製品開発



他社原体

クミアイ化学

他社原体

【成分表拡大図】

オキサジクロメホン・フェンキノトリオン・プロピリスルフロンのプロモブチド粒剤

成分	オキサジクロメホン (PRTR・1種) ... 0.80%	プロピリスルフロンのプロモブチド ... 0.90%
	[3-[1-(3,5-ジクロロフェニル)-1-メチルエチル]-3,4-ジヒドロ-6-メチル-5-フェニル-2H-1,3-オキサジノン-4-オン]	[1-(2-クロロ-6-プロピルイミダゾ[1,2-b]ピリダジン-3-イル)スルホニル]-3-(4,6-ジメトキシピリミジン-2-イル)尿素]
	フェンキノトリオン ... 3.0%	プロモブチド ... 9.0%
	[2-[8-クロロ-3,4-ジヒドロ-4-(4-メトキシフェニル)-3-オキソ-1,2,3,4-テトラヒドロ-1H-ベンゾ[1,2-b]ピリジン-5-イル]カルボニル]シクロヘキサン-1,3-ジオン]	ジメチルブチルアミド]
	鉱物質微粉等 ... 86.3%	
性状	淡褐色細粒	



最新の登録内容

- 自社原体を他社に導出し収益の最大化を図る
- 農薬メーカーは競合であるとともにパートナーとして互いに協力し販売を拡大

▶ エフィーダは他社販売も合わせた2025年度普及面積は**53万**ヘクタール

水稲栽培面積の37%

当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ



2025年1月22日

会社名：クミアイ化学工業株式会社

代表者名：代表取締役社長 横山 優

クミアイ化学と米国 Valent 社、水稲用除草剤エフィーダの米国開発で業務提携

クミアイ化学工業株式会社（本社：東京都台東区、代表取締役社長：横山優、以下、「当社」）と Valent U.S.A. LLC（本社：米国カリフォルニア州サン・ラモン、社長兼CEO：Matt Plitt、以下「Valent」）は、米国における水稲用除草剤エフィーダ®（Effeeda®、一般名：フェンキノトリオン）の共同開発に関わる独占的契約を締結いたしました。本提携は、両社が作物保護におけるイノベーションを推進することで、水稲栽培における雑草防除上の課題を解決し、生産性向上や労働時間の削減を図ることで、持続可能な農業の実現に貢献するものであります。

エフィーダ



米国、欧州、ブラジルにて水稲用、畑作用除草剤として開発中
アジア・中南米を中心に評価を推進

ディザルタ



水稲分野以外への適用を世界各国で評価、開発を検討中

当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ

当社の農薬原体の主要ポートフォリオ



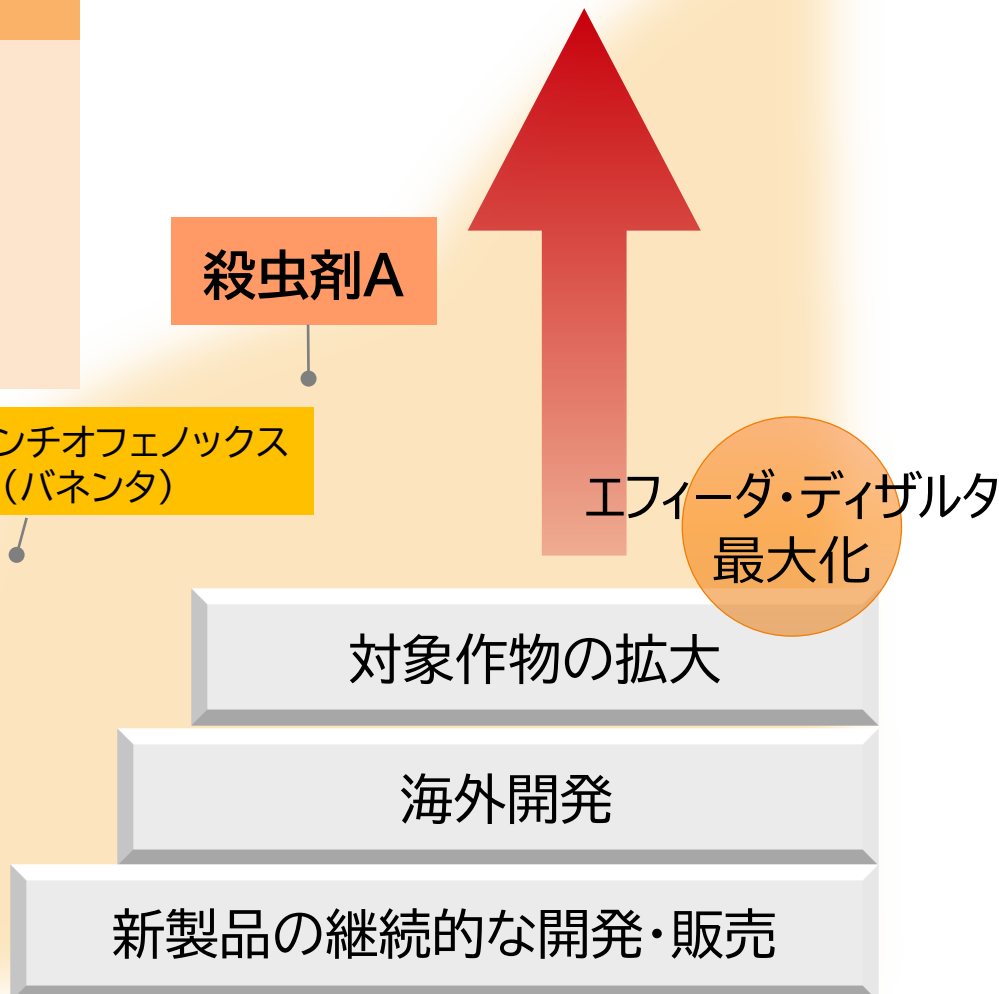
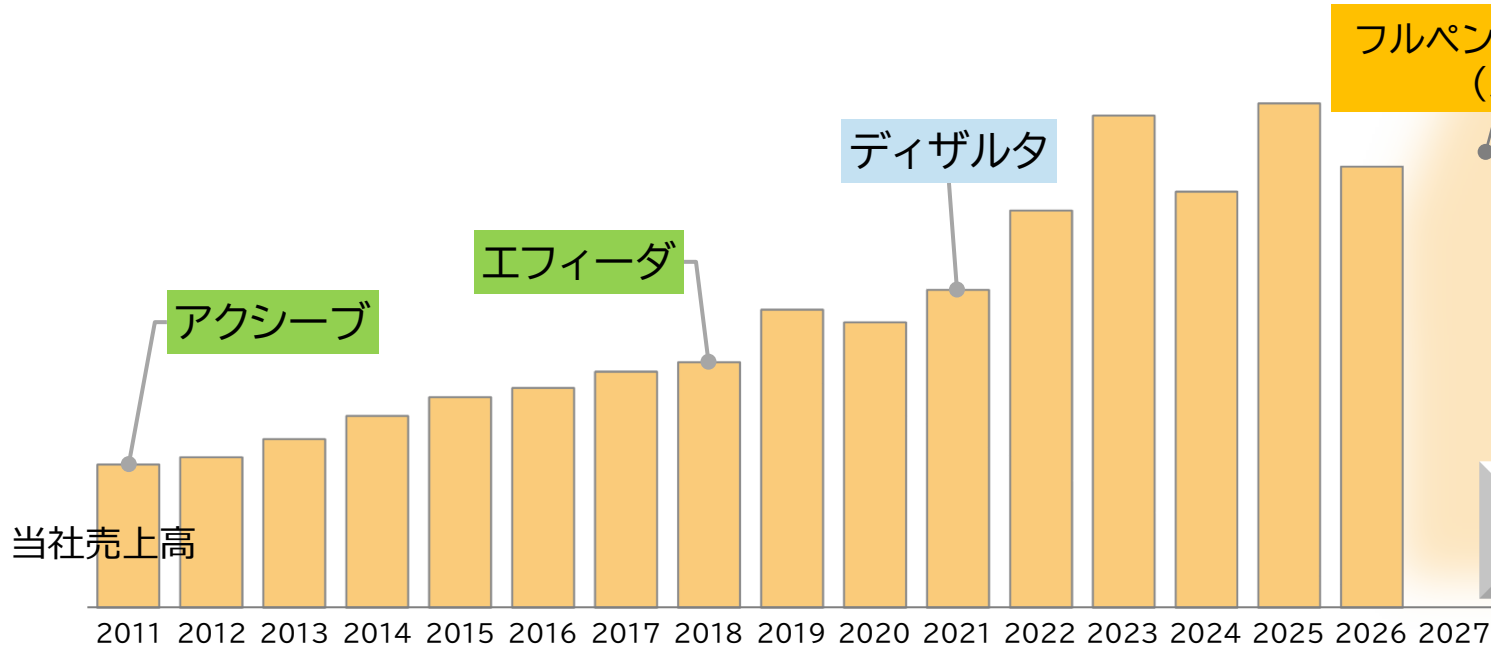
- 20の自社原体を開発 自社開発剤の創出、販売とともに成長
- エフィーダ、ディザルタが成長をけん引する**成長ドライバー**に

当社の成長ドライバー | エフィーダ・ディザルタ

自社原体の強みを活かし、更なるシェア拡大へ

- ✓ 高性能、地域のニーズに即した自社製品の開発
- ✓ 導出による収益の最大化

当社事業をけん引する製品を継続的に創出
持続的な企業価値の向上へ





クミアイ化学
KUMIAI CHEMICAL

本資料に記載されている業績予想および将来の予想などに関する記述は、資料作成時点で入手した情報に基づき、弊社で判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。実際の業績は様々な要因により、これらの業績予想とは異なる可能性があります。

万が一、この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、弊社および情報提供者は一切責任を負いませんこと、ご承知おきください。

弊社および弊社関連会社以外に関する情報は、公知の情報に依拠しており、情報の正確性などについて保証するものではありません。

<お問い合わせ先>
クミアイ化学工業株式会社
経営管理本部 経営企画部 企画課

弊社IRサイトもご覧ください <https://ir.kumiai-chem.co.jp/>